

6 3 6 1 - 9 9 1
平成19年 1月24日

各関係機関の長
各病害虫防除員 殿

宮崎県病害虫防除・肥料検査センター所長

病害虫防除情報第6号

ピーマンのミナミキイロアザミウマの発生状況についてお知らせします。
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

- 1 作物名 ピーマン
- 2 病害虫名 ミナミキイロアザミウマ
- 3 発生状況

- 1) ピーマンのミナミキイロアザミウマについては、栽培初期から発生が多く、10月24日付けで注意報第6号、12月22日付けで同第9号を発表したところであるが、依然として高い発生量となっている。
- 2) 1月中旬現在の発生状況は、発生面積率が53.9%（平年30.0%）で平年よりやや多、10花当たり虫数は5.4頭（平年0.8頭）で平年より多となっている。
- 3) 発生量の推移としては下記（図1，2）のとおりで、発生面積率はやや減少したものの、10花当たり虫数は増加しており1月としてはここ10年間で最も高い数値となっている。
- 4) 向う1ヶ月の長期予報によると、気温は平年より高いと予想されており、本虫の増殖に好適な条件が続くと考えられる。（鹿児島地方气象台 1月19日発表）

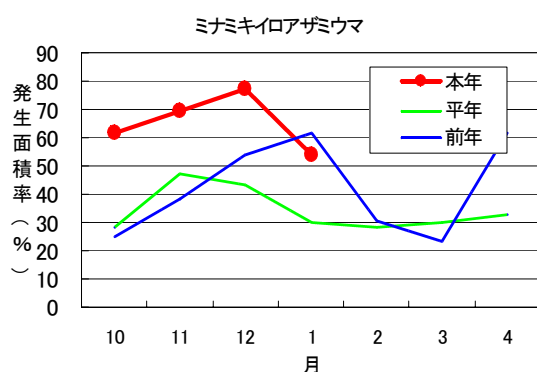


図1 ミナミキイロアザミウマの発生面積率の推移

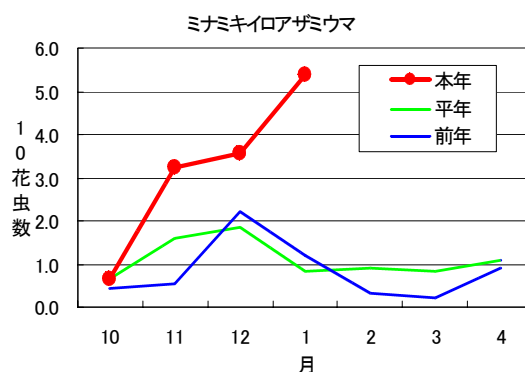


図2 ミナミキイロアザミウマの発生量の推移

4 防除上の注意

- 1) 多発生後の防除は困難となるので、早期発見・早期防除に努め、下記のポイントに留意し、総合的な防除を行う。
 - ① ミナミキイロアザミウマは花や生長点付近に生息し、青色粘着トラップ等に誘引されるので、早期発見の目安とする。
 - ② 繁殖力がきわめて旺盛で、高密度時には卵～成虫まで各ステージが混在するため、防除が著しく困難となるので、発見次第早期防除を徹底する。密度増加時には、薬剤散布後に発生（孵化、羽化）する幼虫・成虫に対しての追い打ち防除が必要である。
 - ③ 薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤のローテーション散布に努める。
 - ④ 各種薬剤に対する感受性が低く薬剤だけの防除は難しいので、天敵や微生物農薬等による生物的防除などを組み入れるなど総合的な対策をとることが必要である。
 - ⑤ 被害の激しい莖葉・果実のハウス外への持ち出し、マルチの導入（本虫の土中や地表面での蛹化を防止）により密度低下をはかる。
- 2) 効果のある薬剤等防除その他の詳細については、病虫害防除・肥料検査センター、総合農業試験場生物環境部、各農業改良普及センター等関係機関に照会すること。
- 3) 農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努める。

《連絡先》

病虫害防除・肥料検査センター 米良

TEL. : 0985-73-6670 FAX. : 0985-73-7499

ホームページ : <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>

E-mail : byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp